

Title	<紹介>飯倉洋一・盛田帝子編『文化史のなかの光格天皇：朝儀復興を支えた文芸ネットワーク』
Author(s)	岡部, 祐佳
Citation	語文. 2019, 112, p. 78-78
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/77206">https://hdl.handle.net/11094/77206</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

飯倉洋一・盛田帝子編『文化史のなかの光格天皇―朝儀復興を支えた文芸ネットワーク』

岡部 祐佳

本書は近世期の天皇による文化的営みについて、光格天皇とその兄妙法院宮真仁法親王周辺を中心に論じたものである。以下、目次によってその概要を示す。

序言 盛田帝子

緒論 光格天皇をどうとらえるか 藤田覚

第一部 近世歌壇における天皇公家

後水尾院と趣向 大谷俊太／靈元院の古今和歌集講釈とその間

書―正徳四年の相伝を中心に 海野圭介／冷泉為村と桜町院

久保田啓一／孝明天皇と古今伝授―附・幕末古今伝授関係年表

青山英正／武者小路実陰家集の二系統について―堂上（内部）

の集と（外部）の集 浅田徹／香川黄中の位置 神作研一

第二部 朝廷をめぐる学芸・出版

『二十一代集』の開板―書肆吉田四郎右衛門による歌書刊行事

業の背景 加藤弓枝／『大日本史』論贊における歴史の展開と

天皇 勢田道生／中村蘭林と和歌―学問吟味の提言と平安朝の

讃仰 山本嘉孝／江戸時代手習所における七夕祭の広がりと言

物文化 鍛冶宏介／書道大師流と近世朝廷 一戸渉／（コラ

ム）梅辻春樵―妙法院宮に仕えた漢詩人 合山林太郎

### 第三部 光格天皇・妙法院宮の文芸交流

寛政期新造内裏における南殿の桜―光格天皇と皇后欣子内親王  
盛田帝子／実録「中山大納言物」の諸特徴―諸本系統・人物造  
型を中心に 菊池庸介／（コラム）冷泉家における光格天皇拜

領品 岸本香織／妙法院宮真仁法親王の文芸交流―『妙法院日  
次記』を手がかりとして、和歌を中心に 飯倉洋一／小沢蘆庵  
と妙法院宮真仁法親王 鈴木淳／（コラム）千蔭と妙法院宮  
山本和明

あとがき 飯倉洋一

一般に、近世期は「庶民の時代」と称されることが多い。そしてそれは一面では事実である。しかしながら、そのような所謂「俗」の文脈だけでこの時代を語ることはできないというのまた、事実であろう。朝廷を中心とした「雅」の文脈が当時の文化に及ぼした影響は、とうてい看過できるものではない。本書は光格天皇と妙法院宮を中心に、「雅」の文化圏の様相を明らかにし、その文化的意義を問う。彼らを核とする人的ネットワークは、時に堂上・地下の枠を越え交わり合い、豊かな世界を醸成している。本書は、光格天皇・妙法院宮周辺の文化圏を解明するのみならず、近世期の文化文芸の魅力の一端を、我々の眼前に鮮やかに示してみせるものであるともいえよう。

（勉誠出版、二〇一八年六月、四〇八頁、八、〇〇〇円＋税）

（おかべ・ゆか 本学博士後期課程、日本学術振興会特別研究員）